校長BLOG

平成２８年８月２５日

『この一冊でわかる！アクティブラーニング』について

北海道教育委員会「課題解決に向けた主体的・協働的な学び推進事業協力校」として探究的実践を継続してきた本校において、すでにお知らせしたとおり、９月９日（金）鈴木建生氏の地域連携研修講演会を実施します。２０２０年度から実施予定の学習指導要領（案）でもアクティブ・ラーニングが重視され、それは「主体的・対話的な深い学び」と定義されています。

アクティブ・ラーニングについては、すでに多くの書があり、研究会も盛んに行われ、とらえ方や手法について様々な議論があります。本校は昨年度から、生徒の学ぶ力を高める授業改善の重要な視点と押さえ、研修してきました。指導者以上に学習者の立場に立ち、「どう学ぶか」を多様な観点から考察し、能動的な学習者の育成を目指しています。「覚えて終わり」「テストで終わり」ではなく、仲間とともに考えながら、主体的に学ぶ力を育み、高校卒業後の生徒が変化する社会をたくましく生きることが探究の目的です。

そうした中、講師の鈴木建生氏が編著者である『この一冊でわかる！アクティブラーニング』は、本質を踏まえ、わかりやすく説明している大変素晴らしい本と思い、ここで本の内容を紹介させていただきたいと思います。

「誰も置き去りにしないために、アクティブラーニングがある」

◆◆◆

第２章　授業・研修の実践事例（峯下隆志氏）　※高校、中学校、大学、専門学校等

第３章　学習者の幸福を追求する授業実践（鈴木建生氏）

１　アクティブラーニングとは何か

・わさびが目にしみて

・「ＷＨＹ」の重視

・主体的・協働的に学ぶ

・学力向上の手法か

２　理念、基本的な形態と技法

〔アクティブラーニングを構造化する協同学習〕

（１）協同学習とは

（２）協同学習の考え方・理念

（３）協同学習の基本構造

〔基本的な学習形態〕

（１）個人で読み取る

（２）個人で書き出す

（３）ペアワーク

（４）グループワーク

（５）クラス発表

〔基本技法〕

（１）話し合い・学び合い

（２）文章・答案作成

（３）教え合い

（４）その他

３　授業のデザイン

・授業をデザインする

・授業の基本構造

・授業デザイン（１単元の授業展開、１校時の授業展開）

・評価手法について

（１）パフォーマンス評価

（２）ポートフォリオ評価

（３）ルーブリック

（４）ピア評価

４　授業の質を高める３つの鍵

・対話力

・ポジティビティ

・自己肯定感

５　なぜ、アクティブラーニングか

・子どもたちの可能性を広げるために

・生きる力の中核「思慮深さ」を育むために

・世界が求める「３つの能力」を育むために

・誰も置き去りにしないために

・「知識基盤社会」を生きるために

・学習者の幸せのために

○章の最後に～大切なことはみんな生徒が教えてくれた～